



国税庁長官官房  
相互協議室室長

井澤 伸晃

国税庁長官官房  
国際業務課課長

磯見 竜太

早稲田大学大学院  
教授

鈴木 友康

30年前、国税庁を志した理由は何ですか？

**井澤** 税は様々な経済活動に密接に関わっていることから、一省庁の国家公務員として幅広い分野の業務に従事できるのではないかと漠然と考えたことが、国税庁の門を叩いたきっかけです。入庁前には、国際業務やIT業務の拡がりまでは想像していませんでしたが、国税庁で実際に働いてみると、その業務の裾野の拡がりは、想像以上であると感じています。

**磯見** 私の場合は、国を動かすと言われる霞が関がどんな所なのか一度見てみたい、といった割と素朴な思いで国家1種試験(当時)を受けました。官庁訪問では、大学時代にやっていた会計の勉強が役立ちそうな官庁をいくつか回り、そんな中、国税庁でとても魅力的な先輩方に出会い、一緒に働くイメージを持てたことが最終的な入庁の決め手でした。

**鈴木** 私は当時、租税法の知識はほとんどなかったのですが、現実の経済取引にどのよう法があてはめられるのか、また、法の執行というのがどのように行われているのかに興味があったのかなと思います。



国税庁で働いて良かった！と実感する瞬間について教えてください。

**井澤** 国際舞台の仕事では、国内外の関係者の利害が複雑に交錯しており、理想的な最適解は得られないことが通常ですが、それぞれの立場の違いを認識・尊重しつつも、一定の合意を模索していくことが求められます。そのような調整と交渉のプロセスの苦労の中で、成果が結実したときの喜びは、ひとしおですね。

**鈴木** 国税庁の仕事の面白いところは、実際に行われている経済取引を目の当たりにして、そこにどのように租税法が適用されるのか、事実認定から法のあてはめに至る過程を全て経験できることかと思っています。常に変化していく経済取引に対応するためには、法律、経済、取引慣習、社会情勢など幅広い知識が要求されるので、そんな自らの成長が求められる緊張感が自分には合っていたのかなと思います。

**磯見** 流石、鈴木教授ですね(笑)。私が入庁してつくづく感じるのは職員のレベルの高さです。国税庁には、総合職以外に、全国の国税局・税務署から選ばれてきた精鋭が集まっています。そういう人達と一緒に仕事をすることで、大いに刺激を受け、自分自身を高めていけることが、何よりもこの組織に入って良かったと感じる点です。

—入庁から30年。  
今では国税組織の幹部として  
日々奮闘するお三方に、  
行政官としての人生を  
振り返っていただいた—



入庁当時から振り返って、国税庁の「変わった点」と「変わらない点」があるとすれば、どのような点だと思いますか？

**磯見** 変わった点と言えば、30年前、国税庁ホームページすらなかった時代に比べれば、スマホ申告など、デジタル化により納税環境は劇的に変わりましたよね。また、30年の間に国税庁全体の職員数がやや減少する中で、経済のグローバル化に伴い、庁内の国際関係部署が実に4倍以上の規模になったことも印象的です。

**井澤** 磯見課長が仰った点はまさに劇的に変わった点ですね。現在私が所属する相互協議室は、私の入庁時には存在していません。企業活動のグローバル化に歩を合わせ、国際関係部署も拡大を続けてきました。国税庁の組織は、時代の流れに則して「変化」し続けているとも言えるでしょうか。



**鈴木** 時代の流れに即して変化したと言えば、働き方や仕事環境も大きく変化したと感じています。一般的には厳しそうなイメージの組織かと思うのですが、子育て支援やワークライフバランスなどに組織として真剣に取り組んでおり、家庭と仕事を両立するための体制がとても充実したのになってますね。

**磯見** そんな中でも変わらない点と言えば、やはり「正直者には尊敬的、悪徳者には畏怖的」の言葉に表される、個々の職員の使命感や正義感ではないですかね。



**井澤** 職員の使命感や正義感の強さは変わらない良いところですね。組織全体で言うと、社会のニーズに応えるため、絶え間なく変化し続けるようにする姿は昔も今も変わらない根底にある部分ですね。

**鈴木** 同感です。適正公平な課税の実現のために、常に変化していくという組織の姿勢はいつまでも変わらないですね。

最後に、国税庁の門を叩こうとする学生の皆さんへメッセージをお願いします！

**磯見** これまでの30年同様、あるいはそれ以上に、これからの時代は大きく変化していくものと思います。そのような中、柔軟な発想で、変化を恐れずに、この大きな組織の進むべき方向を模索し、牽引していくのが国税庁総合職の使命であり醍醐味だと思います。チャレンジ精神溢れる皆さんが、この仲間に加わってくださることを願っています。

**鈴木** 30年間の仕事を通じて、租税法という法律の知識と執行の現場の経験、まさに理論と実務の両面の知識・経験を身に付けて仕事ができたと、とても大きな財産になったと思います。学生の皆さんにとっても、これからの長い人生のなかで、国税という専門的な世界で仕事ができるということは、とても魅力的なものだと思います。

**井澤** 国税庁の仕事は、いつの時代でも不変の社会的意義を持っています。そして、時代の変化の中で、その意義に応えようとするからこそ、国税庁は自ら進化を続けています。こうした変化は、職員に成長のきっかけと機会を絶え間なく提供しています。新たな挑戦に正面から向き合う意欲的な学生をお待ちしております。